

櫛形町文化財調査報告書 No.25

町内埋蔵文化財試掘調査報告

— 豊保育園改築に伴う豊小学校遺跡試掘調査他 —

2002

櫛形町教育委員会

町内埋蔵文化財試掘調査報告

— 豊保育園改築に伴う豊小学校遺跡試掘調査他 —

2002

櫛形町教育委員会

序 文

櫛形町は甲府盆地の西縁、釜無川の西方地域、峠西地方の中心として栄えてきました。古くは2万年以上もの昔より人が暮らし始め、縄文時代には、出土遺物が国の重要文化財に指定され世界中から注目される鋳物師屋遺跡や、縄文時代から古墳時代まで連綿と続く人々の営みが確認された平岡の遺跡群、また、峠西地域で唯一の前方後円墳である物見塚古墳など原始・古代の遺跡も多く、また甲斐源氏の一族小笠原氏発祥の地としても知られ、古くからの足跡が残る歴史豊かな町です。

櫛形町教育委員会では町内に於ける各種開発計画に対し、国・県の補助を受け埋蔵文化財の有無、遺存状況の把握のための試掘調査を実施いたしました。調査により数多くの新たな知見を得られましたことは、本書に述べる通りです。

櫛形町では、郷土の歴史を構築すべく、先人達が遺した多くの貴重なデータを着実に蓄積しております。これらは町民が地域の豊かな歴史を学び、そこから誇りともいべき地域の良さを次世代へと伝え、未来を創生していく糸口として大きな意味をもつものといえましょう。

未来へ向けこのような資料を地元町民の学習の機会へと活用していきたいと考えております。最後になりましたが、今回の調査、報告書作成にご指導ご協力くださった皆様に対し厚く御礼申し上げるとともに、本書が広く活用され文化財の保護に役立つことを願い序文といたします。

平成14年3月

櫛形町教育委員会
教育長 中込脩

例 言

1. 本書は、平成13年度に行った、山梨県中巨摩郡櫛形町における埋蔵文化財試掘調査及び整理調査の報告書である。
2. 本調査は、櫛形町教育委員会が国・県の補助金を受けて実施した。
3. 調査組織は以下の通りである。
調査主体 櫛形町教育委員会、 調査担当者 保阪太一（櫛形町教育委員会 文化財主事）
4. 発掘・整理参加者
相川春美・飯久保初美・井上ことじ・井上巴江・井上増美・今村絵里香・入倉妙子・小口妙子・長田由美子・
加藤由利子・川崎しげ美・神田久美子・久保田幸恵・小林美咲枝・桜田和子・桜田みさえ・鈴木アサ江・橋 幸美・
長沼豊子・生原浩美・深澤敬子・古郡 明・望月その美・由井伴三・若林初美
5. 本書における図版は若林が作成し、その他は保阪が行った。
6. 試掘調査によって得られた出土遺物、記録図版及び写真等は櫛形町教育委員会において保管している。
7. 試掘調査及び報告書作成にあたり、下記の方々からご指導・ご協力を頂いた。記して謝意を表する次第である。
大窓正之・小坂隆司・小林健二・斎藤秀樹・田中大輔・畠 大介・廣瀬和弘・米田明訓

目 次

序文

例言

第Ⅰ章 埋蔵文化財をとりまく環境 1

第1節

　　櫛形町の自然的・歴史的環境

第2節

　　櫛形町埋蔵文化財保護行政の概要

第Ⅱ章 町内埋蔵文化財 試掘調査の成果

　　携帯電話鉄塔用地内遺跡 5

　　横道遺跡 6

　　滝沢川堤防右岸遺跡 8

　　狐塚A遺跡 10

　　新居田A遺跡 12

　　十五所遺跡 14

　　新居田B遺跡 18

　　曾根遺跡 20

　　伊奈ヶ湖遺跡 21

　　豊小学校遺跡 22

挿図目次

第1図 遺跡位置図[1/25,000] 3

第2図 携帯電話鉄塔用地内遺跡位置図[1/2,500] 5

第3図 携帯電話鉄塔用地内レンチ配置図[1/200] 5

第4図 横道遺跡位置図[1/2,500] 6

第5図 横道遺跡レンチ配置図[1/500] 6

第6図 横道遺跡・出土遺物[1/3] 7

第7図 滝沢川堤防右岸遺跡位置図[1/2,500] 8

第8図 滝沢川堤防右岸遺跡レンチ配置図[1/1,500] 8

第9図 滝沢川堤防右岸遺跡レンチセクション図[1/80] 9

第10図 狐塚A遺跡位置図[1/2,500] 10

第11図 狐塚A遺跡レンチ配置図[1/600] 10

第12図 狐塚A遺跡レンチセクション図[1/160] 11

第13図 新居田A遺跡位置図[1/2,500] 12

第14図 新居田A遺跡レンチ配置図・セクション図[1/1,600・1/150] 13

第15図 十五所遺跡位置図[1/2,500] 14

第16図 十五所遺跡レンチ配置図[1/500] 14

第17図 十五所遺跡構造配置図・セクション図[1/160] 15

第18図 十五所遺跡1号住居址・1号方形周溝墓出土土器[1/40・1/4・1/3] 16

第19図 十五所遺跡土器集中箇所出土土器[1/40・1/3] 17

第20図 新居田B遺跡位置図[1/2,500] 18

第21図 新居田B遺跡レンチ配置図[1/2,000・1/400] 19

第22図 新居田B遺跡出土遺物[1/3] 19

第23図 曾根遺跡位置図[1/2,500] 20

第24図 曾根遺跡レンチ配置図[1/1,500] 20

第25図 伊奈ヶ湖遺跡位置図[1/10,000] 21

第26図 伊奈ヶ湖遺跡レンチ配置図[1/15,000] 21

第27図 豊小学校遺跡位置図[1/2,500] 22

第28図 豊小学校遺跡レンチ配置図[1/400] 22

第29図 豊小学校遺跡出土遺物[1/3] 23

表 目 次

第1表 平成12年度、13年度実施試掘調査一覧 2

図版項目

写真図版1 滝沢川堤防右岸遺跡 新居田A遺跡 十五所遺跡

図版2 新居田B遺跡 曾根遺跡

第Ⅰ章 埋蔵文化財をとりまく環境

第1節 櫛形町の自然的環境

櫛形町は、西に南アルプスの前衛巨摩山地の主峰である櫛形山を控え、東の眼下に甲府盆地を望む。

周辺の地形を概観すると、日本を東西に二分する大構造、フォッサマグナの西縁を限る糸魚川・静岡構造線が南北に走り甲府盆地の西端を画している。断層は甲府盆地の西端では幾重にも発達しており、大きな地形の変換点を成し、櫛形町周辺では「南アルプス」と櫛形山を主峰とする「巨摩山地」を隔て、その東麓では伊奈ヶ湖断層崖をもって「市之瀬台地」、さらに下市之瀬断層崖によって甲府盆地西端の「複合扇状地」へと至り、大きく3地形を形成し、櫛形町はそれらを跨るように立地する。

巨摩山地は南アルプスの前衛で、巨摩山地の東側は急斜面をもって標高を減じ低い丘陵性の山地及び台地へと低下する。櫛形山の東麓に広がる市之瀬台地は、洪積扇状地が最も新しい地殻変動によって形成された丘陵状の地形である。台地は南北4km、東西2.5kmの扇形平面形を呈し、標高は400～500mを測る。台地上面は、櫛形山を水源とする北から高室川・塩沢川・深沢川・漆川・市之瀬川等が流れ、これらの河川が形成した谷に挟まれ、東側へと舌状に張り出した小支丘が北から曲輪田、伝嗣院、平岡(六科丘)、上野山、などと並び扇状地を望んでいる。台地前面は比高差100～120mを有する下市之瀬断層崖を経て盆地床の扇状地へと至る。また、台地先端には発達した小円頂丘が並ぶ。台地を流れる河川は急勾配をもって流れ落ち、盆地床に至ると自ら削りだした大量の土砂を堆積させる。こうして各谷から流れ出た土砂は、御勅使川の形成する大扇状地と相まって複雑な「複合扇状地」を成している。

第2節 櫛形町埋蔵文化財保護行政の概要

平成12年度の櫛形町における埋蔵文化財行政を概観すると、昨今の経済不況の中とはいえた民間企業による開発行為の増加がみられ、特に情報化社会を裏付けるべく、携帯電話用無線基地局にかかる施設の建設工事と、宅地開発に関わる建設計画の増加が注目される。櫛形町では、本調査に至った物件も含め、秋以降2～3件併行して調査を実施する時期が続いた。7件の試掘調査を実施し、うち2件が原因者負担により事前調査が実施されている。

平成13年度は前年度とは違い開発数が激減し、そのかわりに公共事業に関わる大規模な試掘調査を実施することが可能となった。調査数が減ったことから、昨年、現地での試掘調査が精一杯であった各物件の整理調査を実施することができ、ここにその成果をまとめ報告することとなった。なお、3件の試掘調査のうち1件で埋蔵文化財が確認され、事業の変更無く原因者負担により事前調査が実施されている。

実施された調査のうち注目される成果を挙げると、以下のとおりである。横道遺跡は出土遺物が国の重要文化財に指定された鎔物師屋遺跡を望む市之瀬台地縁辺部に立地し、事前調査により遺存状態が比較的良好な敷石住居址が2軒(うち1軒は埋設土器をもつ配石遺構か)検出されている。新居田B遺跡も事前調査を実施しており、狭小な調査範囲ながらも縄文時代晩期～弥生時代中期初頭の遺物を含む土坑群の検出など、山梨県内では空白に近い該期の貴重な調査例となつた。十五所遺跡は過去に山梨県が実施した調査区の隣接地であり、方形周溝墓群の更なる広がりが確認された。豊小学校遺跡では高壇・器台を中心とした古墳出現期の遺物が出土している。

平成12～13年度には国の重要文化財である鎔物師屋遺跡の資料が国内外を問わず広く貸し出し依頼があり、櫛形町の由緒ある歴史を世界中にPRすることができた。

刊行物に関わる事業としては、平成12年度には新居田A遺跡の調査報告書や文化財パンフレットの作成、平成13年度には横道遺跡、新居田B遺跡、北原C遺跡の各調査報告書、北原C遺跡の一般向け概報を作成した。

第1表 平成12年度・13年度実施 試掘調査一覧

No.	遺跡名	所在地	調査概要				遺跡概要			備考
			調査期間	整理期間	対象面積	原因	主な時代	主な遺構	主な遺物	
1	携帯電話 鉄塔用地内	十五所 895-3	H120621	—	109m ²	携帯電話用 鉄塔設置	—	—	—	—
2	横道	下市之瀬 字横道 69-1	H120906	H12年度 本調査実施	149m ²	携帯電話用 無線基地局 設備設置	縄文時代 中期末～ 後期初頭 近世	敷石住居址 近世土壙墓	縄文土器 古銭 火打金	本調査実施 H13年9月 報告書公刊
3	滝沢川堤防 右岸	小笠原 宇東村 167-15他	H120914 ～0925	H12年度～ 13年度実施	2445m ²	宅地造成	近現代	石積	—	—
4	狐塚A	下市之瀬 1429-8	H120925 ～0929	H12年度～ 13年度実施	638m ²	工場建設	—	—	—	—
5	新居田A	平岡 1149他	H121016 ～1106	H12年度～ 13年度実施	1191m ²	農道改良拡幅	—	—	黒曜石製剥片 縄文土器	—
6	十五所	十五所 177-1	H121017 ～1108	H12年度～ 13年度実施	608m ²	宅地造成	弥生時代末～ 古墳時代初頭	住居址 方形周溝墓	弥生土器～ 古式土師器	—
7	新居田B	平岡 1163-2他	H121221 ～1223	H13年度 本調査実施	1546m ²	農道建設	縄文時代中期 弥生時代中期 ～後期末	流路跡	縄文土器 弥生土器	本調査実施 H14年3月 報告書公刊
8	曾根	上宮地 字久保 976他	H130406 ～0412	H13年度 実施	2828m ²	町道建設	—	—	弥生土器 土師器	—
9	伊奈ヶ湖	上市之瀬 字高尾山 1666番他	H131025	H13年度 実施	5420m ²	公園造成	—	—	土師器	—
10	豊小学校	吉田 802-1他	H131225 ～1228	H14年 3月～ 本調査実施	4050m ²	保育園建設	弥生時代末～ 古墳時代初頭	溝状遺構	弥生土器～ 古式土師器	H14年 3月～ 本調査実施

平成12・13年度に実施された事前調査

新居田A遺跡 平成12年7月3日～8月31日 10月2日～10月13日

横道遺跡 平成12年11月6日～11月27日

新居田B遺跡 平成13年4月18日～28日 5月24日～6月29日

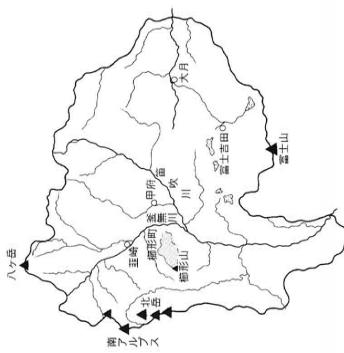
豊小学校遺跡 平成14年3月～(継続中)

北原C遺跡 整理調査を実施



- ①携帯電話鉄塔用地内遺跡 ②横道遺跡 ③滝沢川堤防右岸遺跡 ④狐塚A遺跡 ⑤新居田A遺跡 ⑥十五所遺跡 ⑦新居田B遺跡 ⑧曾根遺跡 ⑨伊那ヶ湖 ⑩豊小学校遺跡

第1図 遺跡位置図[1/25,000]



第Ⅱ章 町内埋蔵文化財 試掘調査の成果

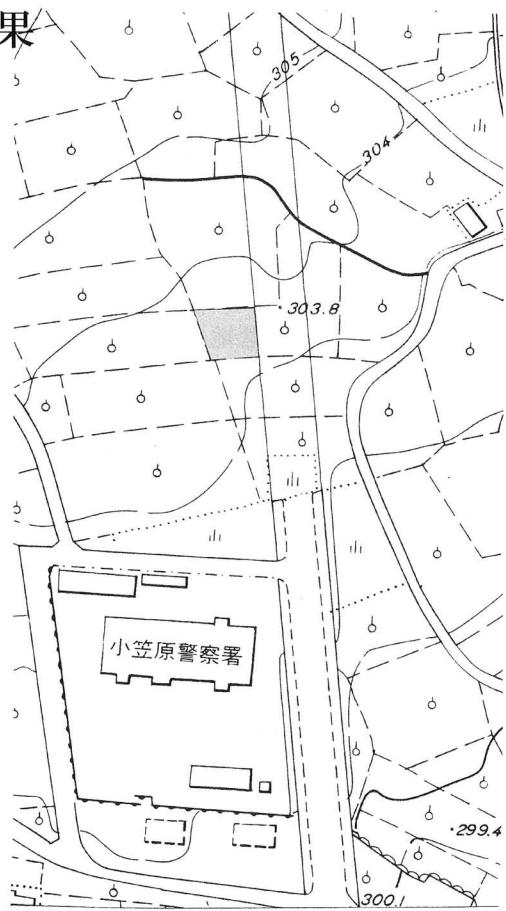
1. 携帯電話鉄塔用地内遺跡

所在地	十五所895-3
原因	携帯電話用鉄塔設置
調査期間	平成12年6月21日
対象面	109m ²
調査面積	約10m ²

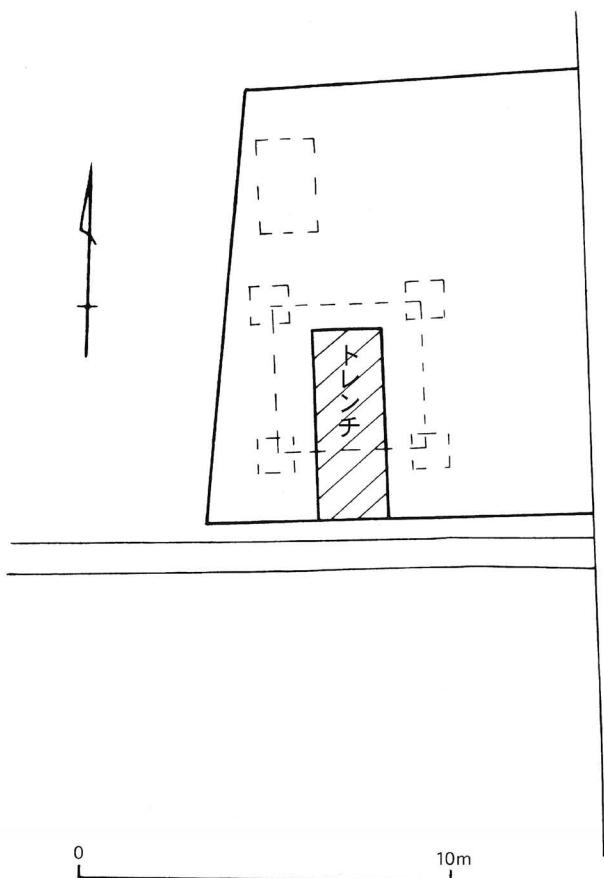
本計画地は、いわゆる「周知の埋蔵文化財包蔵地」には該当していないなかつたが、本遺跡の立地する十五所周辺は、扇状地の扇央部にあたり、砂礫が厚く堆積し、踏査による包蔵地の把握が困難である点や、当地より北へ約300mの地点に赤面C遺跡があり、試掘調査により多数の遺物が検出された実績などから本地点においても試掘調査を実施し空白である当地周辺におけるデータの収集を行うこととした。

試掘調査は、当計画地内に試掘溝を1箇所設定し、重機を用いて掘削した。

試掘調査の結果、地表より約0.6mまでが耕作土であり、その下シルト層と砂礫層との互層が続き下層へ向かうほど砂礫層が厚く堆積する傾向を示す。地表下約2.8mで黄褐色の粘土質層が検出されたが遺構・遺物ともに検出されなかった。



第2図 位置図[1/2,500]



第3図 携帯電話鉄塔用地内トレンチ配置図[1/200]



断面

2. 横道遺跡

所在地	下市之瀬字横道69-1
原因	携帯電話用基地局設備設置による
調査期間	平成12年9月6日
対象面積	149m ²
調査面積	54.5m ²

横道遺跡は、甲府盆地を望む市之瀬台地の縁辺部に立地する。市之瀬川と漆川とに挟まれた舌状台地の南縁辺部にあたり、標高は約325mを測る。漆川や市之瀬川によって開析された扇状地は標高約310~300mを扇頂とし、その扇央部に铸物師屋遺跡などが位置する。遺跡の西には市之瀬川の刻んだ小支谷を挟んで物見塚古墳ののる上野山を見上げている。現在、台地縁辺部周辺は扇状地にかけた傾斜を利用し、石積みを用いた棚畠が広がっている。

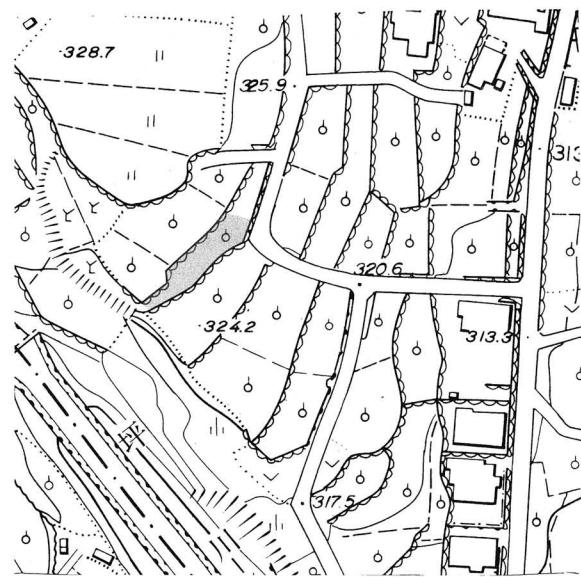
今回の計画は甲府盆地を望む市之瀬台地縁辺部に、携帯電話用無線基地局設備を設置するもので、平成12年初夏、教育委員会へ埋蔵文化財の取り扱いに対する問い合わせがあった。事業計画地がいわゆる「周知の埋蔵文化財包蔵地」の横道A~D遺跡に囲まれた位置にあたり、周辺から縄文土器片等が表採されるため、埋蔵文化財の存在が予測されたことから同年9月6日に町教育委員会により試掘調査が実施された。

検出された遺構・遺物

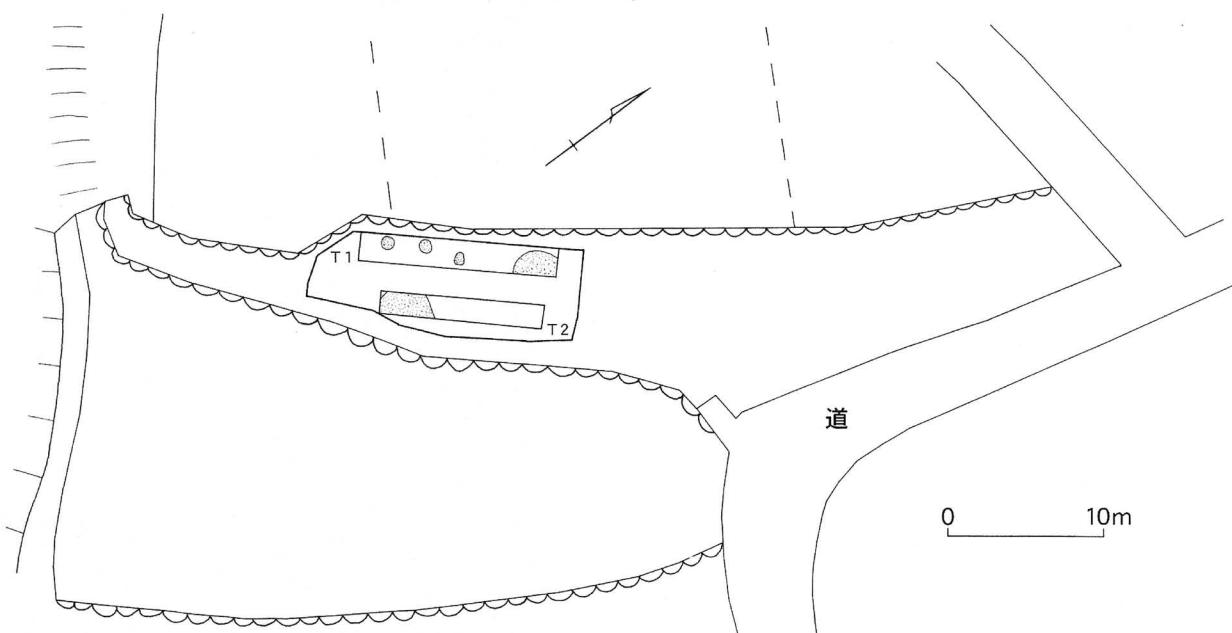
試掘調査は、計画範囲内に2本の試掘溝を設定し掘削を行った。現地表面より約50cmの深さで遺構確認面とみられる黄褐色砂礫層が検出された。遺構は土坑4基ならびに、住居址の縁石と思われる石列が検出された。

事前調査は櫛形町教育委員会により同年11月6日~11月27日に実施され、縄文時代中期末~後期初頭の敷石住居2軒(内1軒は埋設土器を有する配石遺構の可能性あり)、近世土坑墓17基、近代道路状遺構などが検出された。調査成果は平成13年9月に報告書として公刊されている。

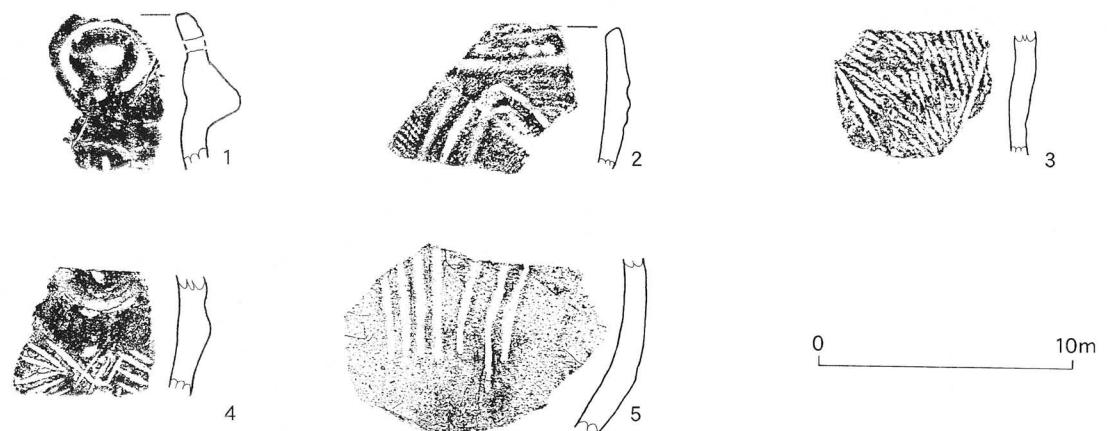
遺物は、縄文時代中期~後期の土器片多数が検出されたが、その殆どが縄文時代後期初頭堀之内式である。図示し得たものは5点のみ。いずれも堀之内式期に属する。



第4図 位置図[1/2,500]



第5図 横道遺跡トレーニング配置図[1/500]



第6図 横道遺跡、出土遺物[1/3]



T 1 T 2 西より



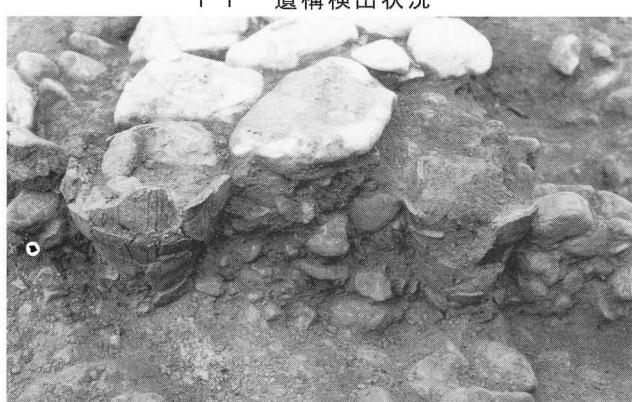
試掘 作業風景



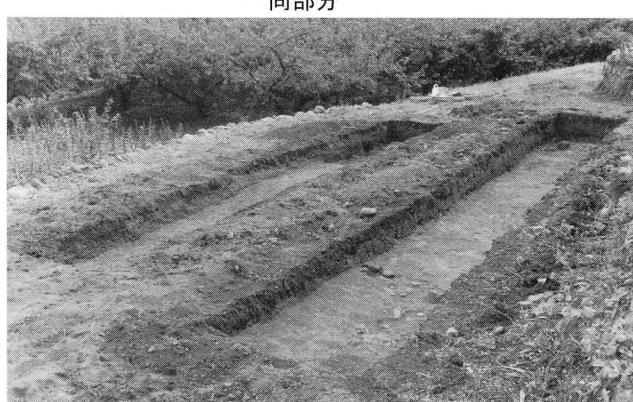
T 1 遺構検出状況



同部分



事前調査で検出された埋甕(埋設土器)



T 1 T 2 北より

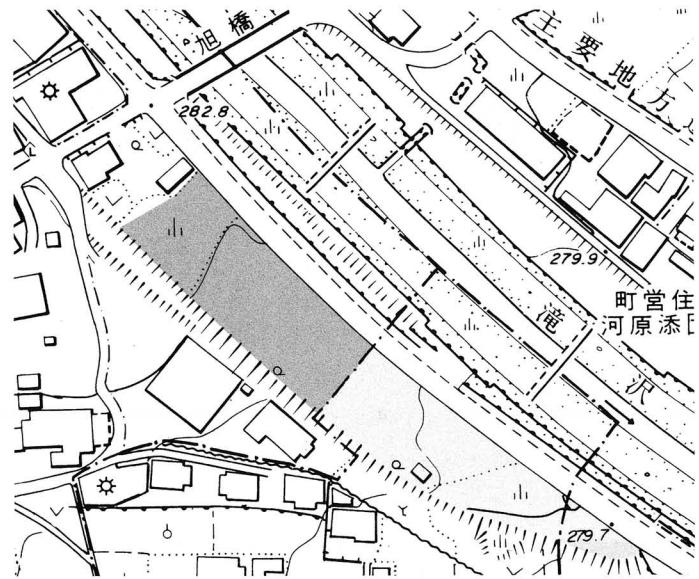
3. 滝沢川堤防右岸遺跡

所在地	小笠原字東村167-15他
原因	宅地造成による
調査期間	平成12年9月14日～9月25日
対象面積	2445 m ²
調査面積	67.5 m ²

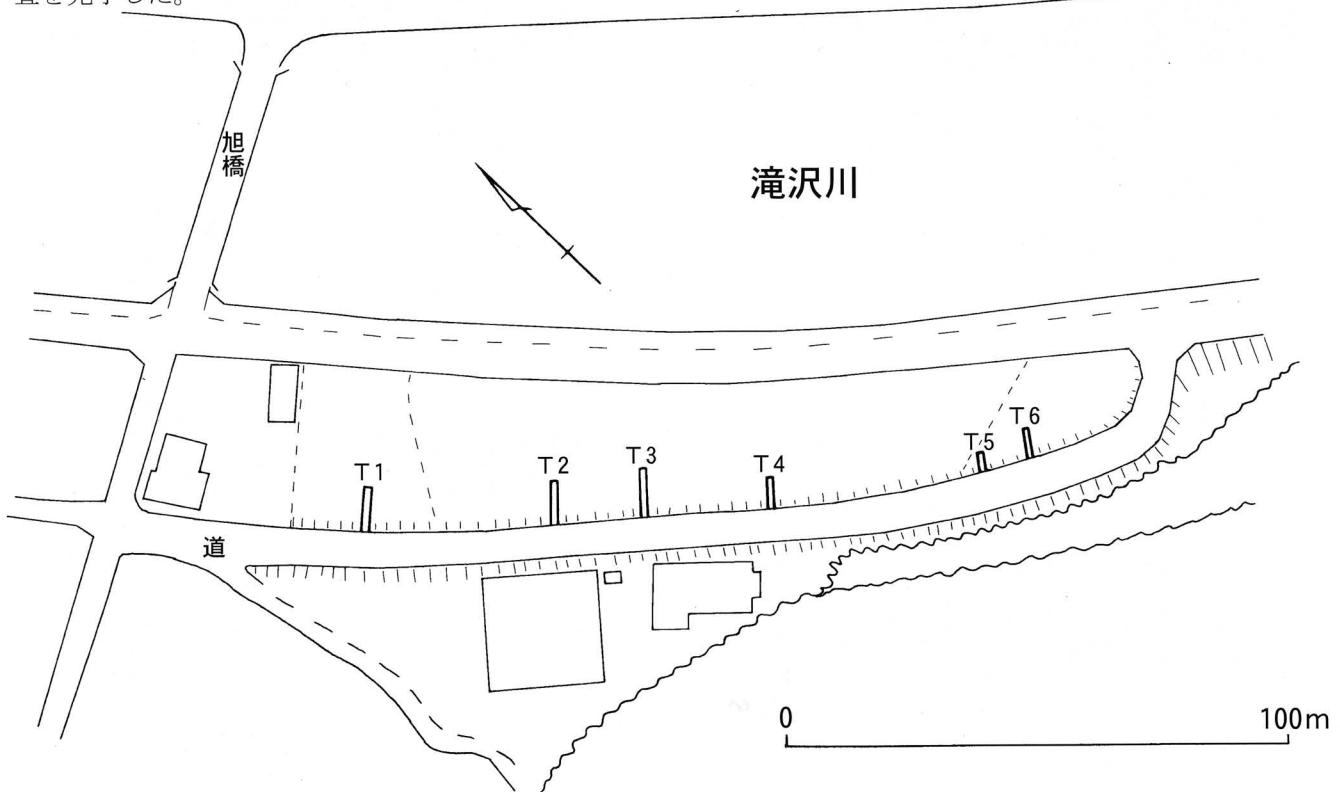
滝沢川は櫛形山より発する大和川と深沢川とが小笠原の西で合流し、東南流する河川である。滝沢川は釜無川へと合流する手前、小笠原付近で南へと向きを変え、ここを扇頂として小扇状地を形成する。現在滝沢川の河川敷の一部に堤状の高まりが現存しており、いわゆる「周知の埋蔵文化財包蔵地」として認識されている。今回、当地において宅地造成の計画があがり、計画地内において石積が50m以上に渡り確認されたことや、堤状の高まりがみとめられる事から試掘調査を実施する運びとなった。当造成地域は甲西町と若草町とに跨っている。

検出された遺構

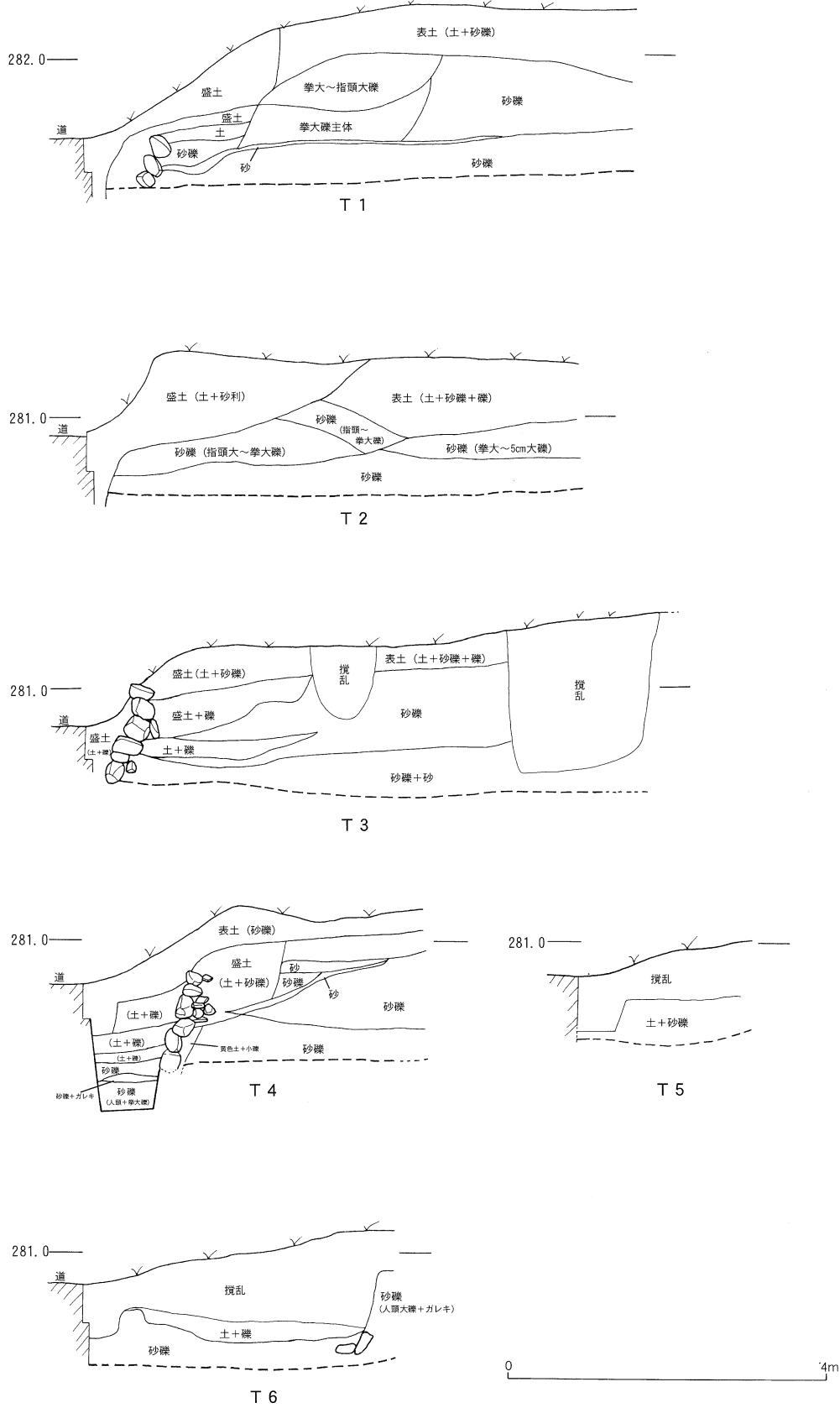
高まりに対して断面の状況を把握すべく、直角方向に計6本の試掘溝を掘削したが、その内3本において石積の断面を把握することができた。石積は貼石状であり、背面には上層から、盛り土、旧地表面とみられる土層(混ガレキ)、自然河川堆積物とみられる砂礫層・砂利層、と堆積状況を示す。貼石は比較的急角度で立ち上がるが、貼石の裏土中の遺物から近代以降の所産とみられる。石積みの前面には構造物は検出されなかった(T4)。また、聞き取りにより、今回の計画により削平される地表で確認された石積については戦後の住宅建設時に積み直したものであることが判明し、地表面下から検出された石積は保存されることから調査を完了した。



第7図 位置図[1/2,500]



第8図 滝沢川堤防右岸遺跡 トレンチ配置図[1/1,500]



第9図 滝沢川堤防遺跡トレントレンチセクション図[1/80]

4. 狐塚A遺跡

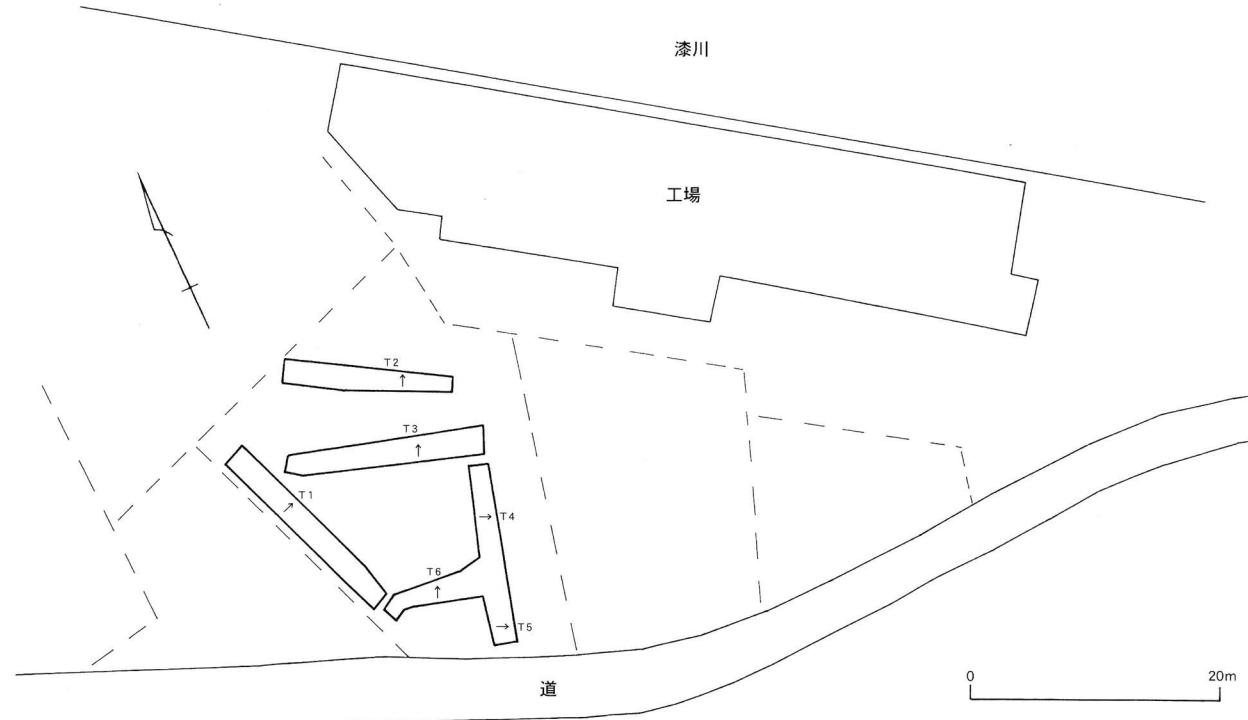
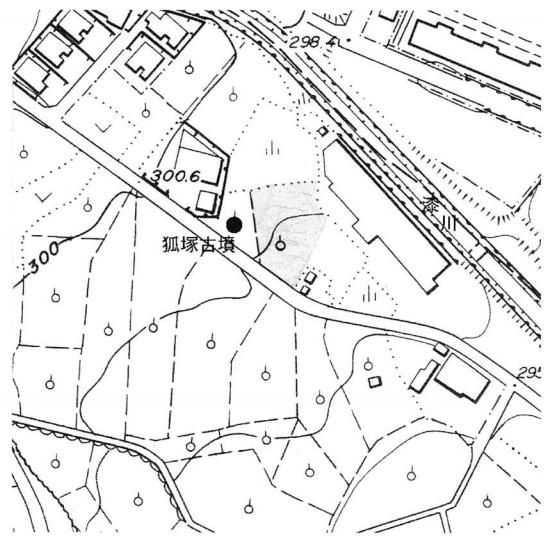
所在地	下市之瀬1429-8
原因	工場建設による
調査期間	平成12年9月25日～9月29日
対象面積	638.2m ²
調査面積	138m ²

狐塚A遺跡は、漆川によって運ばれた土砂によって形成された扇状地上、漆川を望む標高約300mに立地する。

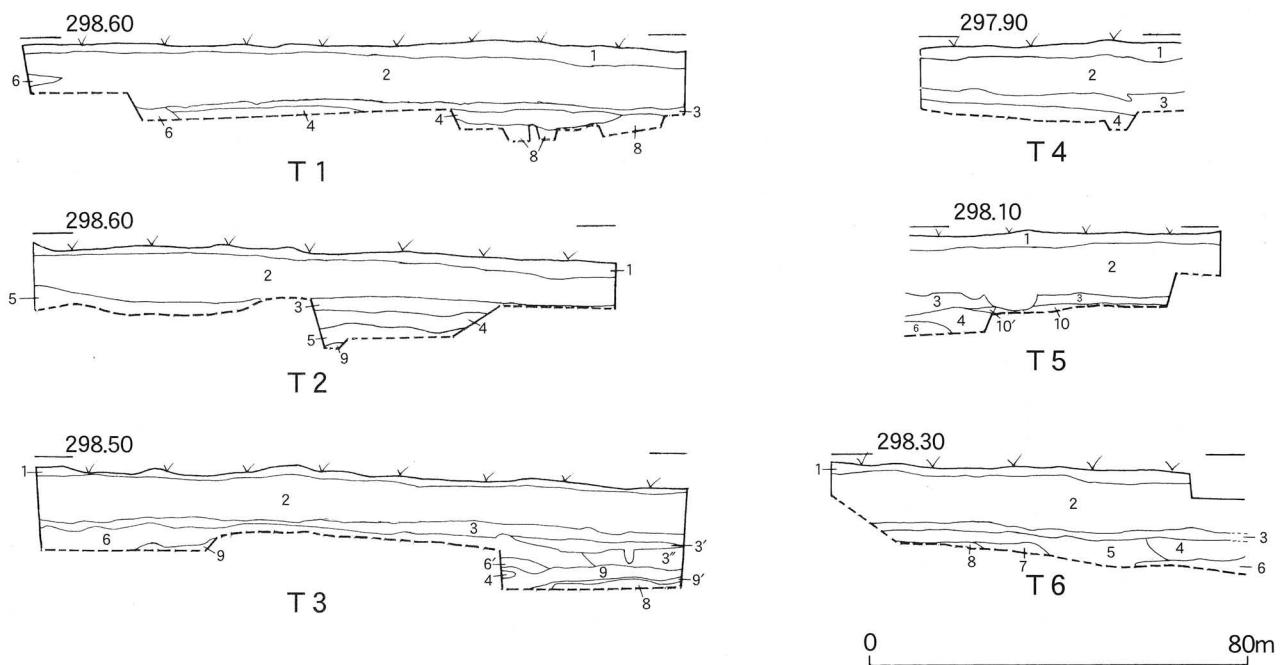
今回の計画は当地に隣接する工場の増築によるものである。当計画地はいわゆる「周知の埋蔵文化財包蔵地」である狐塚A遺跡に該当し、また西接して狐塚古墳が存在する。狐塚古墳は後期古墳の円墳であり、周辺に多数の古墳の存在が予測される。周辺地域は畑として利用されており土地の改変は著しいものとみられる。当地の南西に鎧物師屋古墳があり、道路建設に伴い事前調査が実施され、削平のため墳丘は遺存していないものの周溝が検出されている。これらのように周辺において群集を成すものと推測されることから試掘調査を実施する運びとなった。

検出された遺構

すぐ隣接して古墳が存在することもあり、当計画地内において全体を網羅すべく5箇所の試掘溝を設定し重機を用いて掘削した。計画地の北側は漆川による影響とみられる土砂の堆積がみとめられた。計画地の南端では土坑状の落ち込みを1基検出したが、他に遺構らしい跡は検出されなかった。また、遺物も検出されなかつたため調査を完了した。



第11図 狐塚A遺跡 トレンチ配置図[1/600]



層名 説明

- 1層：耕作土
- 2層：砂礫（拳大～米粒大の礫+細砂～粗砂が互層に入る）
- 3層：黒褐色土層（粘性強、3cm程の礫中量混入—遺物包含層）
- 3'層：3層+6層
- 3''層：3層+9層
- 4層：茶橙褐色土層（粘性や有、しまり強、5cm程の礫が中量混入）
- 5層：茶褐色砂質土層（粘性無、しまり無、3cm程の礫多量、下位に人頭大礫が多量混入）
- 6層：茶橙褐色合礫層（5～10cm程の礫主体、ボロボロ状）
- 6'層：6層+砂

- 7層：合礫層（人頭大礫主体+茶褐色砂質土）
- 8層：黄緑色砂質土層
- 9層：茶褐色砂質土層（粘性有、しづり有）
- 9'層：9層+礫
- 10層：黄褐色ローム主体層
- 10'層：10層+3層

第12図 狐塚A遺跡・トレントセクション図[1/160]



調査区全景



T 2



T 3

5. 新居田A 遺跡

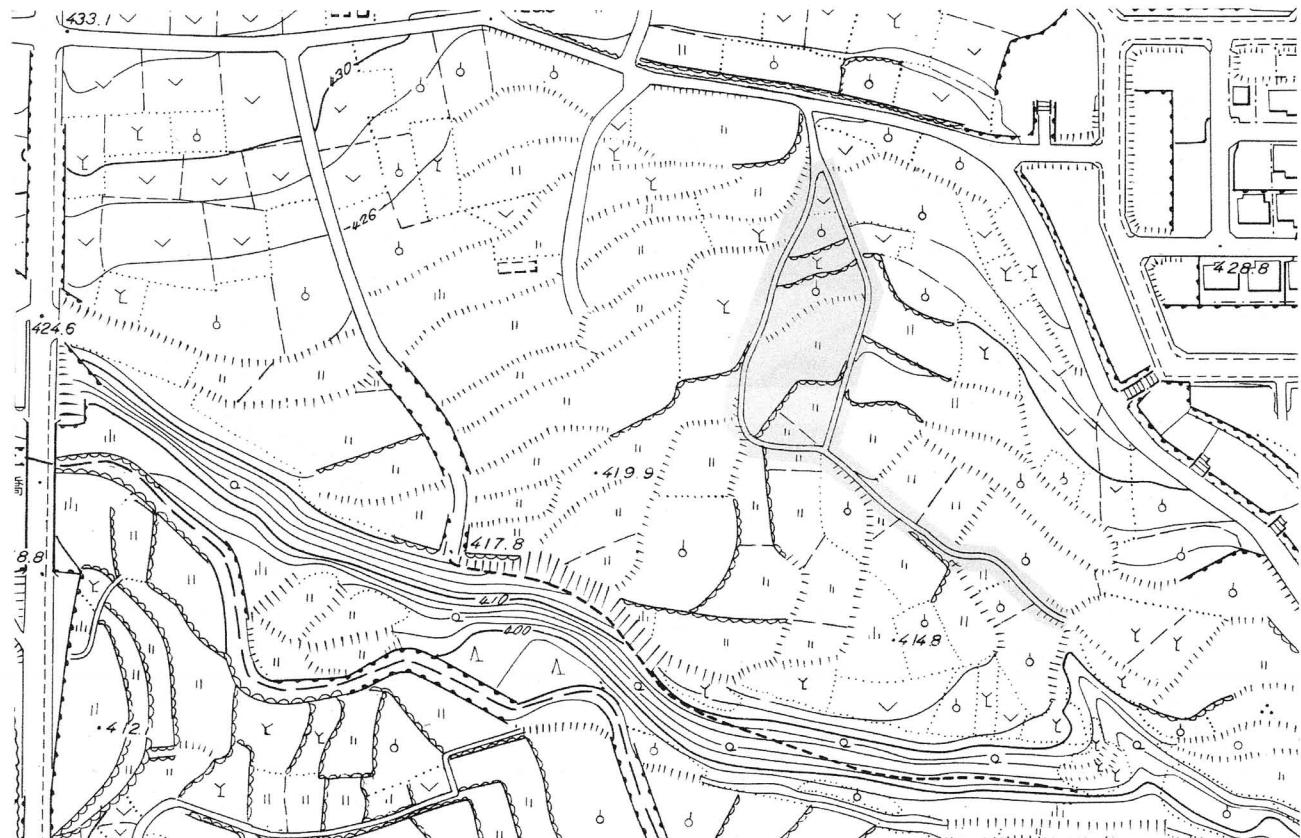
所在地	平岡1149他		
原因	中山間地域総合整備事業 農道11号拡幅改良工事による		
調査期間	平成12年10月16日～11月6日	対象面積 1191m ²	調査面積 277m ²

新居田A遺跡は市之瀬台地のほぼ中央、それぞれ東流する北は深沢川、南は漆川によって開析された谷地に挟まれた平岡の舌状台地の南面に立地し、標高約430mを測る。台地は概ね東へ傾斜しているが、先端付近で再び標高を増し小円頂丘を形成する（六科丘遺跡：現在は削平され住宅地となっている）。そのため小円頂丘の南西側に、漆川へと向かう小支谷がみとめられる。既存の農道はその谷地形を利用して通っており、今回の計画はその農道の拡幅及び改良工事である。

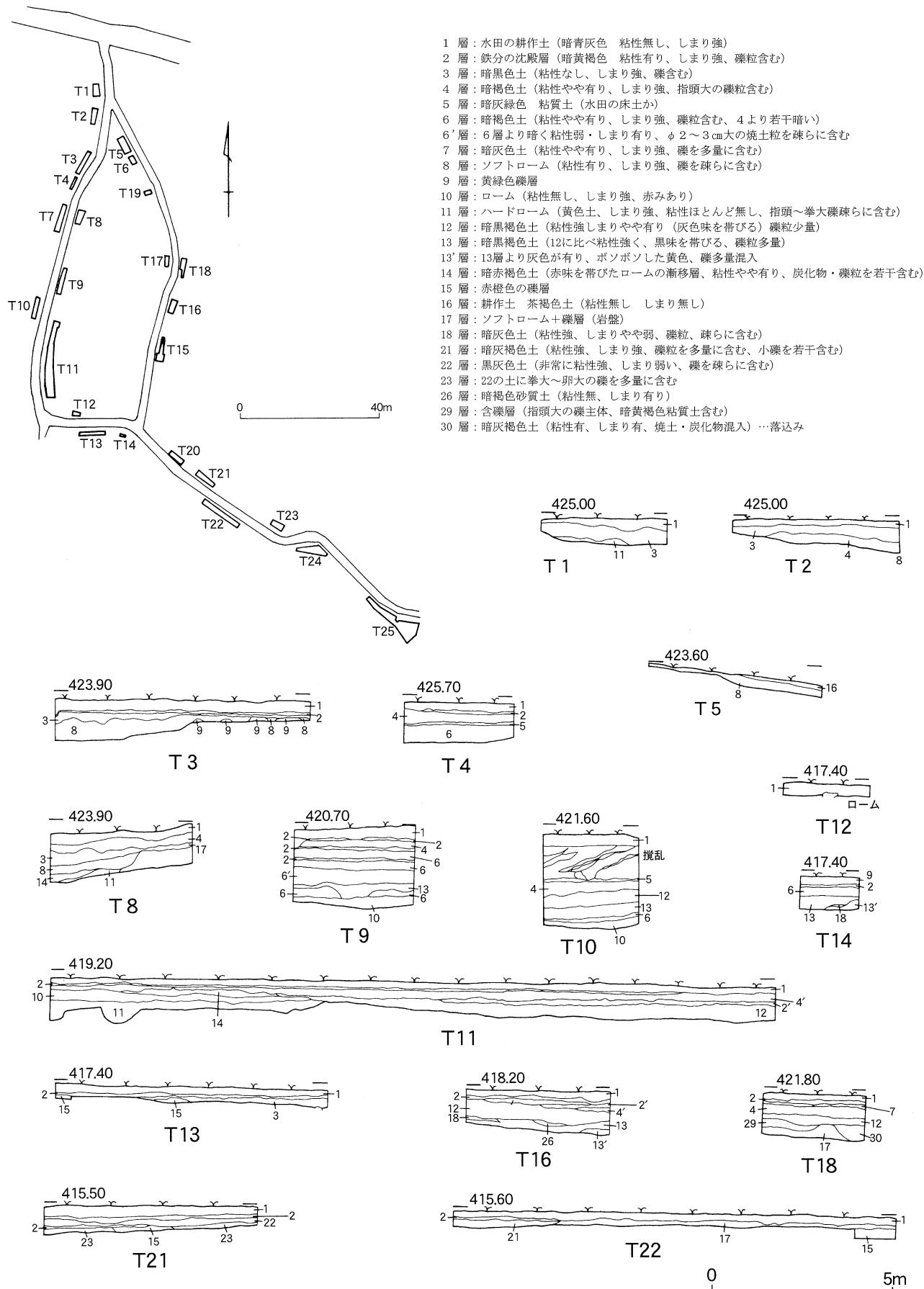
事業計画地の一部がいわゆる「周知の埋蔵文化財包蔵地」の新居田B遺跡に該当し、また、新居田A遺跡の調査地点（「農村地域活性化農道整備事業」）から分岐する農道である点からも試掘調査の必要の旨を伝え、工事は、北側半分を平成12年度分（本調査地点）、農道新設工事を実施する南側半分を平成13年度分（新居田B遺）と2期に分けて実施することとな、それぞれの区間に對してスケジュールを調整し埋蔵文化財を取り扱うこととなった。平成12年度工事分は、既存の農道が崖際まで続く区間とし、拡幅部分に計25箇所の試掘溝（T1～T25）を設定し、重機を用いて掘削しその後手作業で精査した。

検出された遺構と遺物

土層の堆積状況は南東へ向けて傾斜する様子が顕著にみとめられ、一部に流路跡など、地山を侵食した様子が伺えられた。明確な遺構は検出できず、断面観察から土坑と思われる落ち込みが1基と、遺物としては黒曜石、縄文時代中期の土器片を極少量検出したのみである。よって断面記録等を修了させ、事前調査の必要はないものと判断した。



第13図 位置図[1/2,500]

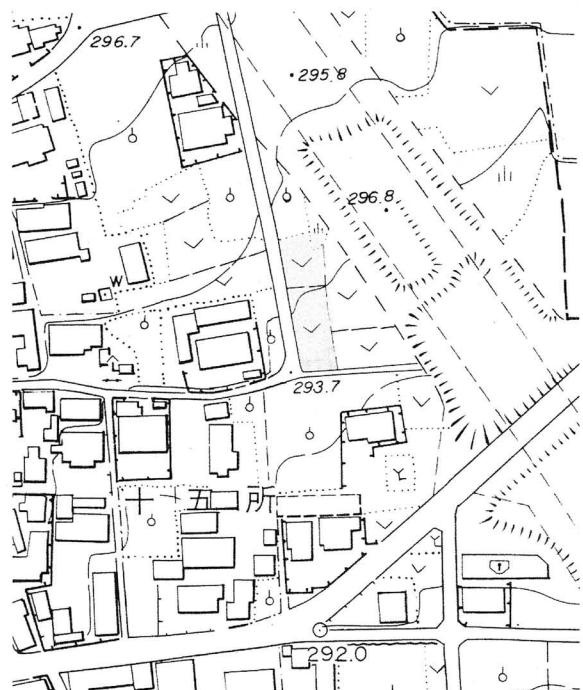


第14図 新居田A 遺跡トレーニング配置図・セクション図[1/1,600-1/150]

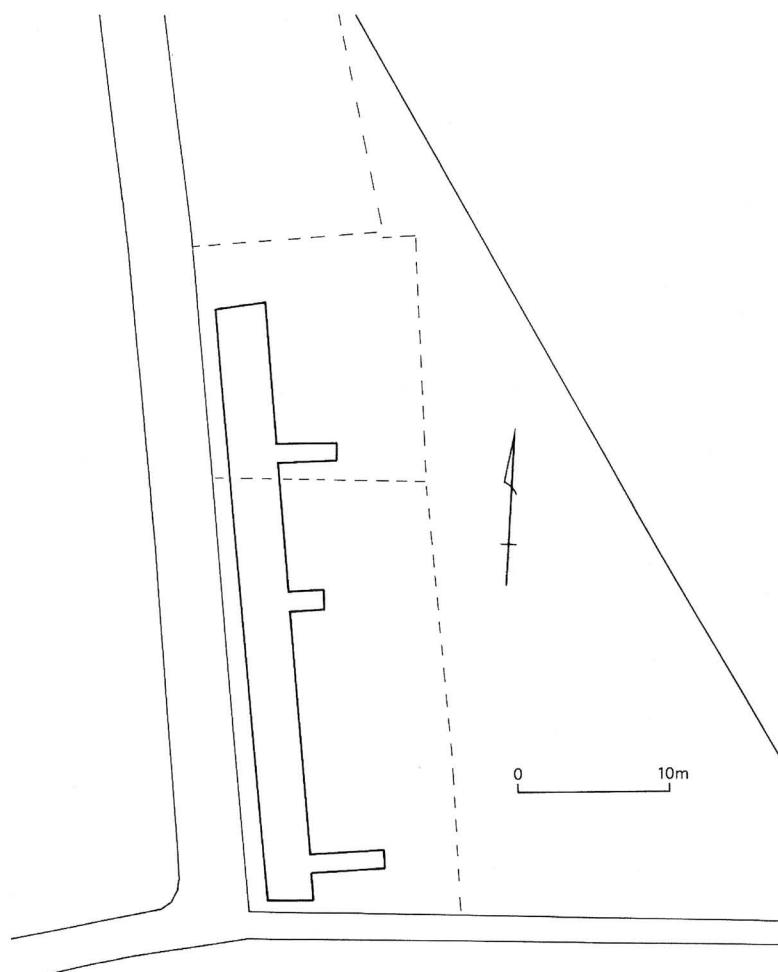
6. 十五所遺跡

所在地	十五所177-1
原因	分譲住宅建設による
調査期間	平成12年10月17日～11月8日
対象面積	608m ²
調査面積	68m ²
調査結果	弥生時代後期終末の方形周溝墓（開口部）と弥生時代後期～古墳時代の住居址1軒、溝4条が検出された。それらに伴い土器片が出土している。浄化槽の設置される箇所のみ完掘し、住宅建設部分は遺構確認のみ実施した。

十五所遺跡は、扇状地の扇央部～扇端部に位置し、甲西バイパスの建設に伴い県埋蔵文化財センターにより一部事前調査が実施され、弥生時代末期の方形周溝墓群を主体とし、また古墳時代初頭の住居址も含んだ遺跡であることが判明した。



第15図 位置図[1/2,500]



第16図 十五所遺跡・トレンチ配置図[1/500]

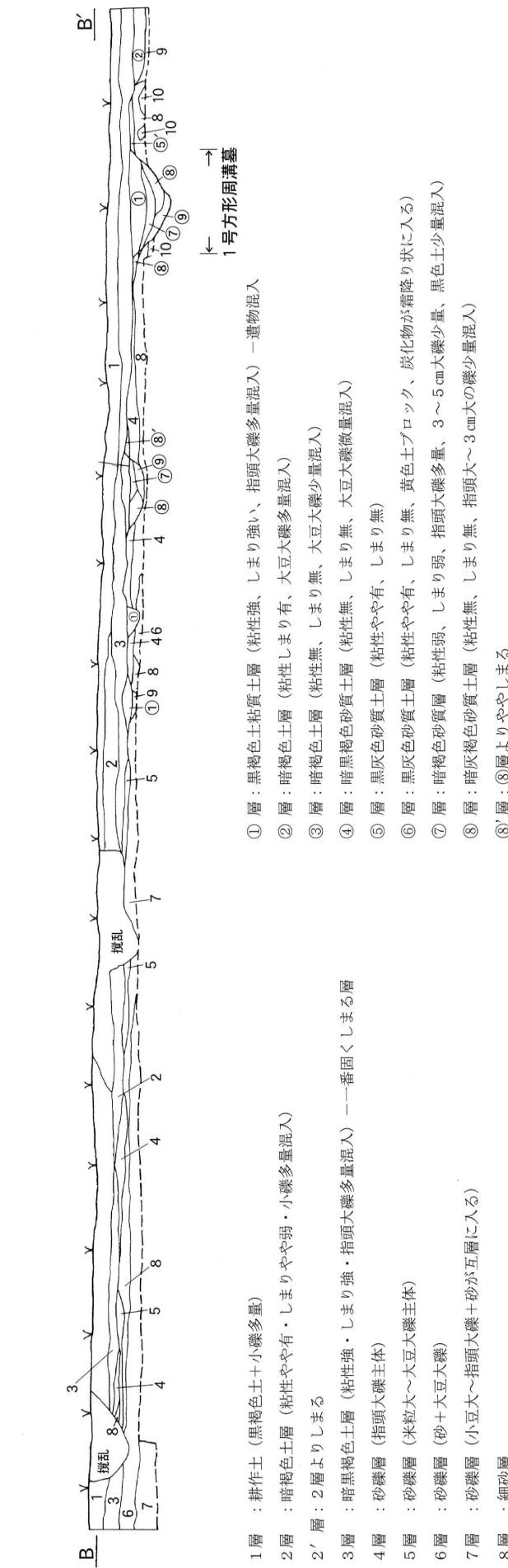
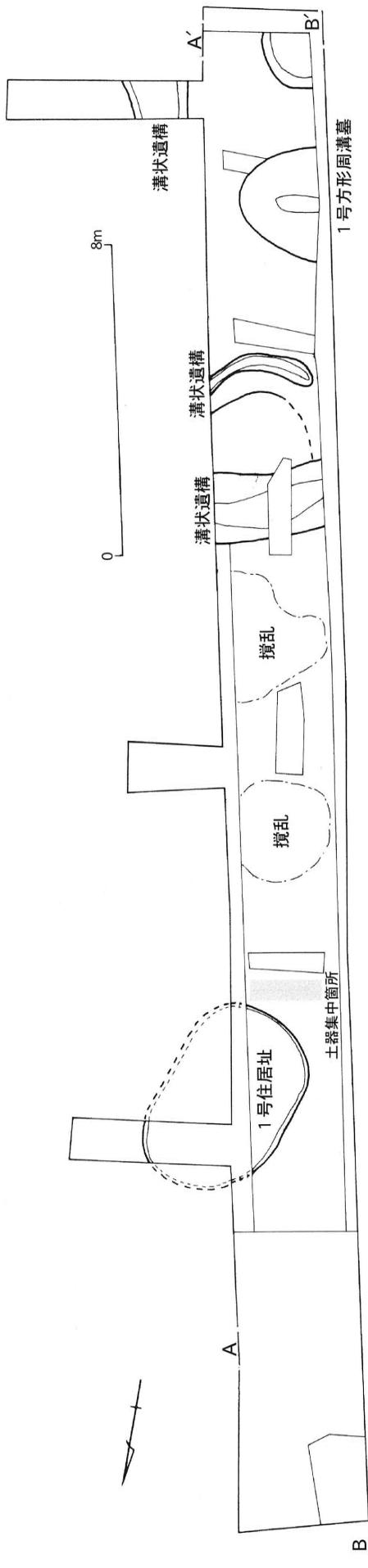
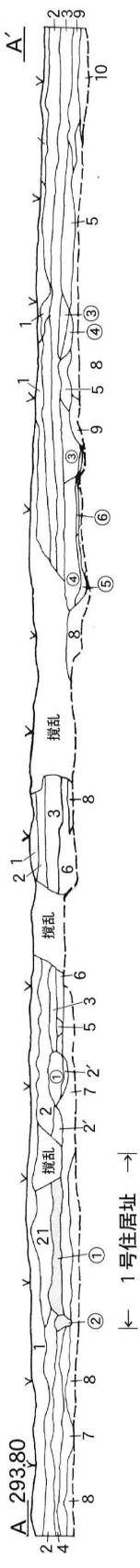
今回、甲西バイパスの調査地点の隣接地に宅地造成の計画があがつた。

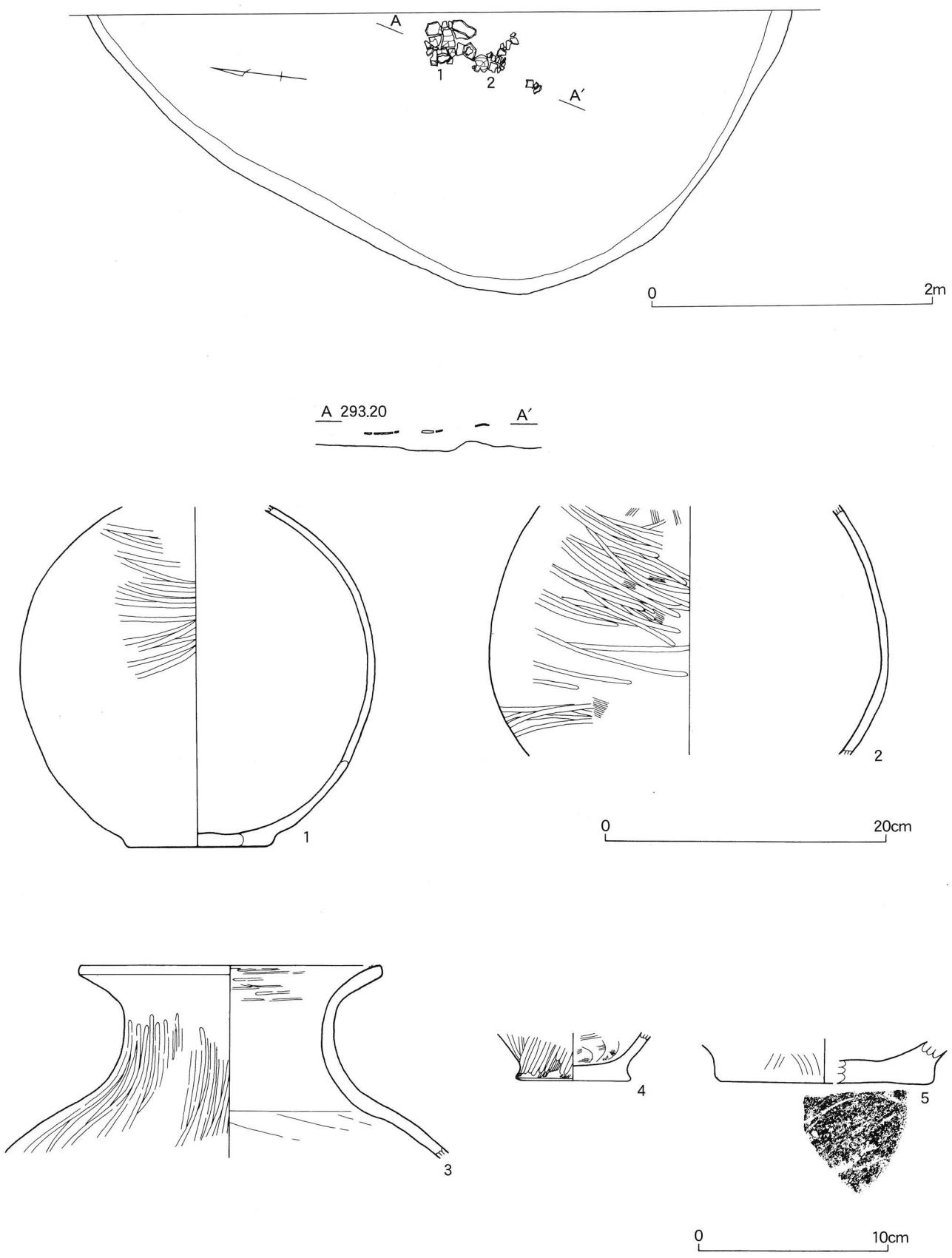
試掘調査は重機を用いて掘削し、その後手作業により精査した。遺構確認面は地表面下約70～90cmであり、今回の住宅建設によって遺跡の破壊されることはない。浄化槽を設置する箇所についてのみということもあり、総合的に判断し、部分的に記録保存を実施することとした。住宅建設部分については遺構の広がりを試掘溝で確認し終了した。

検出された遺構・遺物

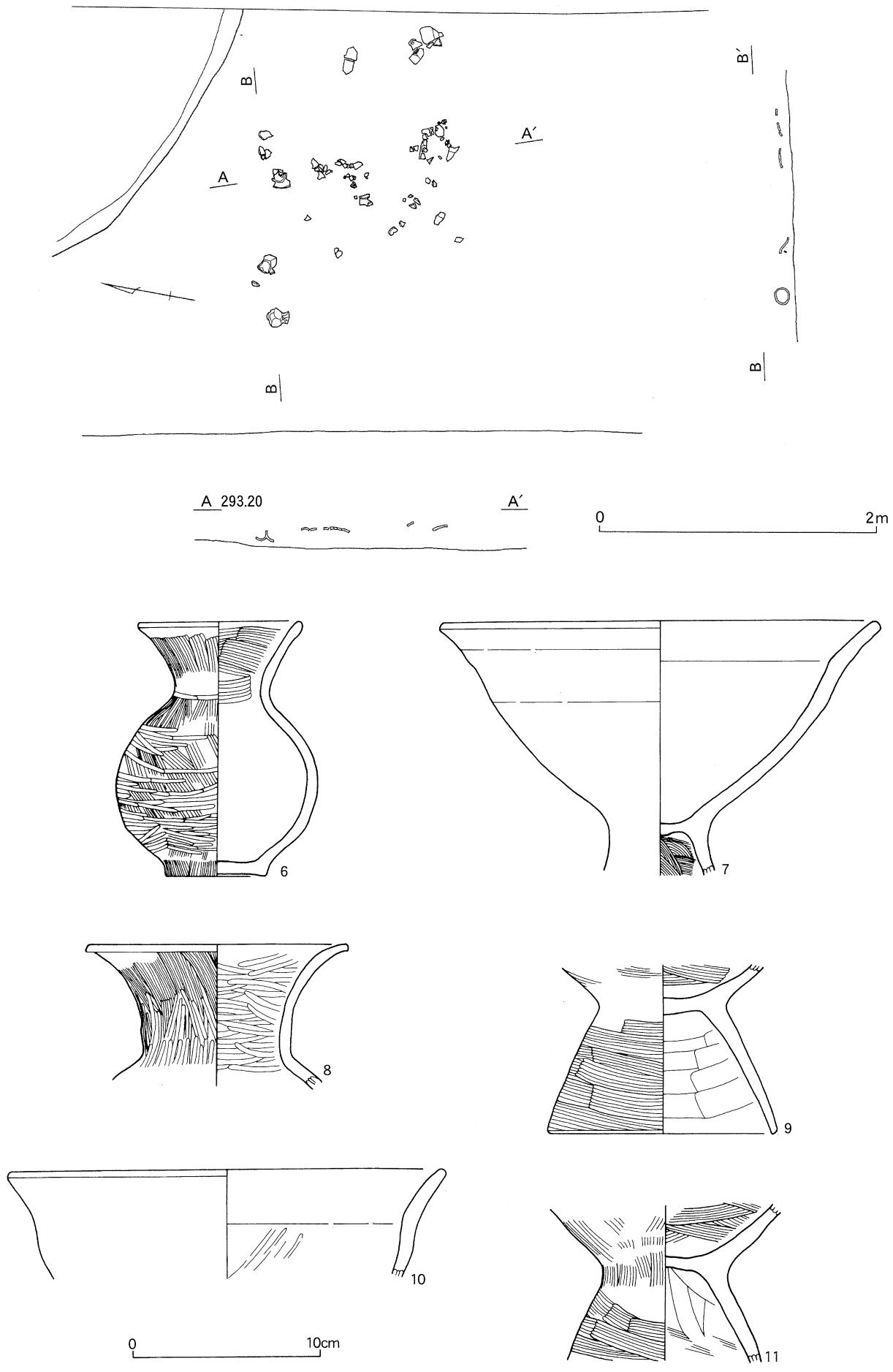
弥生時代末期の方形周溝墓（開口部のみ）1基と弥生時代末期～古墳時代初頭の住居址1軒、溝4条が検出された。また、住居址のすぐ脇に土器の集中する地点があった。

1・2は住居址から出土の壺。調査区壁際からまとまって出土した。3～5は方形周溝墓からの出土である。6～11は土器集中地点からの出土で、6はほぼ完形で出土した小型の壺である。胴部下半に稜を持ち、ハケメのあとケズリとミガキが施されている。弥生時代末期の所産か。





第18図 十五所遺跡 1号住居址 1号方形周溝墓出土土器[1/40・1/4・1/3]



第19図 十五所遺跡土器集中箇所出土土器[1/40・1/3]

7. 新居田B 遺跡

所在地	平岡1163-2他
原因	中山間地域総合整備事業 農道11号拡幅改良工事による
調査期間	平成12年12月21日～12月23日
対象面積	1546m ²
調査面積	220m ²

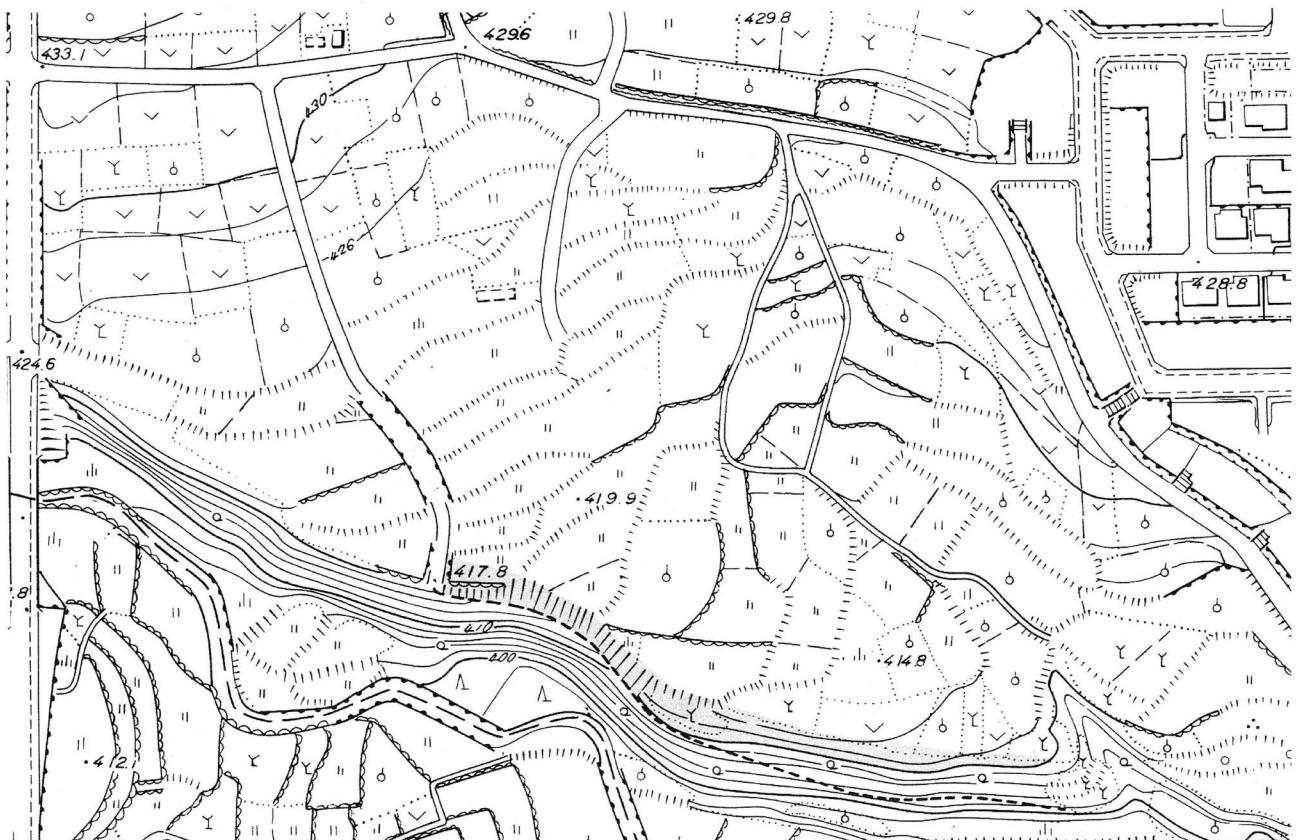
新居田B遺跡は市之瀬台地のほぼ中央、それぞれ東流する北は深沢川、南は漆川によって開析された谷地に挟まれた平岡の舌状台地の南面に立地し、標高約414～420mを測る。

台地は概ね東へ傾斜しているが、先端付近で再び標高を増し小円頂丘を形成する（六科丘遺跡：現在は削平され住宅地となっている）。そのため小円頂丘の南西側に、漆川へと向かう小支谷がみとめられる。既存の農道はその谷地形を利用して通っており、新居田B遺跡はそれぞれの谷地に挟まるように張り出す小規模な舌状台地の端、漆川を眼下に望む崖際に立地する。今回の計画はその農道の拡幅及び新設工事である。

事業計画地の一部がいわゆる「周知の埋蔵文化財包蔵地」の新居田B遺跡に該当し、また、新居田A遺跡の調査地点（「農村地域活性化農道整備事業」）から分岐する農道である点からも試掘調査の必要の旨を伝え工事は、北側半分を平成12年度分（新居田A遺跡）、農道新設工事を実施する南側半分を平成13年度分（本調査～地点）と2期に分けて実施することとなり、それぞれの区間に對してスケジュールを調整し埋蔵文化財を取り扱うこととなった。

平成13年度実施の新設工事範囲は、既存の農道の終点から方向を西へ変え崖際を通り別農道へと合流する。

試掘溝は計11箇所設定し(T1～T11)、重機を用いて掘削した。土地は耕作のため削平されており、耕作土を除去すると、浅い箇所では地表面下約40cmで、深くても1mでローム層が検出された。



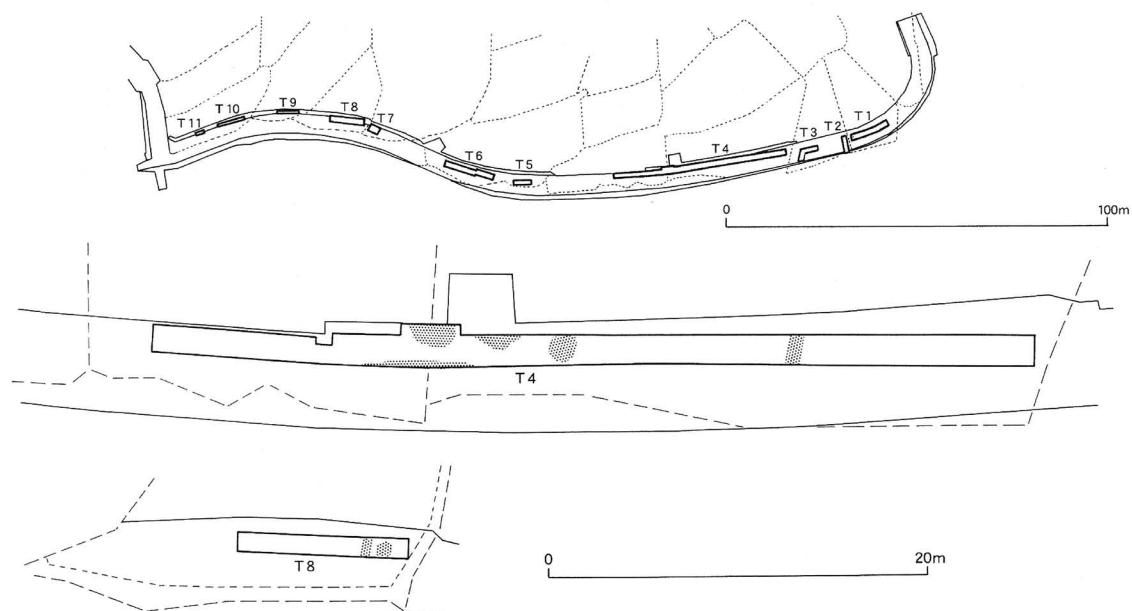
第20図 位置図[1/2,500]

検出された遺構と遺物

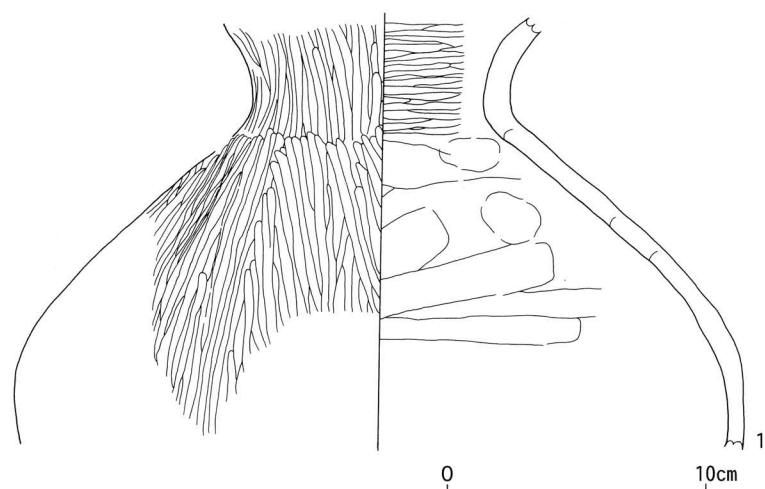
T4の中央よりやや西側で弥生時代後期の土器片の集中箇所ならびに遺構と思われる落ち込みや、東側で溝状遺構が検出され、またT8からは焼土と住居址と思われる落ち込みが検出された。

遺物は、縄文時代中期の土器片、弥生時代中期とみられる条痕文土器片、弥生時代後期の土器片等が出土した。1は確認面で検出された壺の頸部から胴部上半の破片であり、タテ方向にヘラミガキの調整がみられる。

事前調査は、櫛形町教育委員会によってT4、T8を中心とする2箇所に調査区を設定し、平成13年4月18～28日、5月24日～6月28日に実施した。住居址3軒、土坑23基、溝状遺構等が検出され、縄文時代晩期～弥生時代中期の土器片が多数出土している。詳しくは、平成14年3月に公刊された報告書を参照されたい。



第21図 新居田B遺跡トレンチ配置図[1/2,000・1/400]



第22図 新居田B遺跡出土遺物[1/3]

8. 曾根遺跡

所在地	上宮地字久保976他
原因	町道建設工事による
調査期間	平成13年4月6日～4月12日
対象面積	2828m ²
調査面積	272m ²

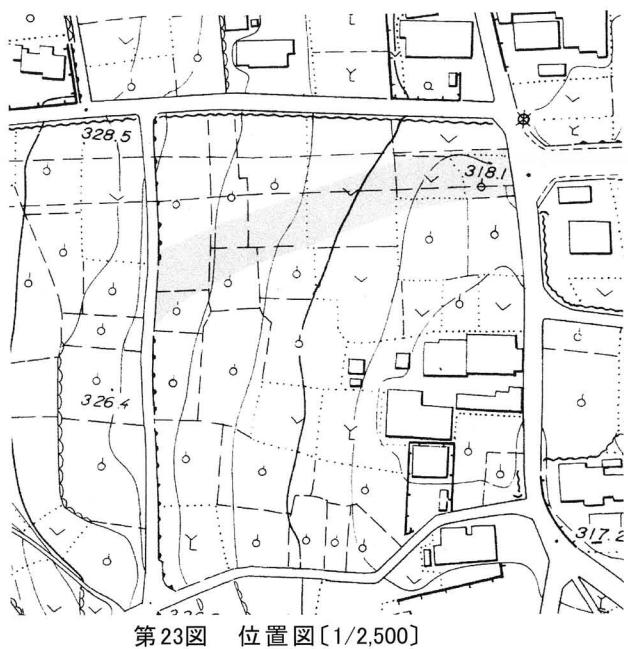
曾根遺跡は、市之瀬台地の前端、下市之瀬断層崖下部に発達した低台地に立地する。昭和58年に農地侵食防止事業に伴い事前調査が実施され、縄文時代中期と古墳時代初頭を中心とした集落が確認されている。

今回、曾根遺跡の北側で町道の建設計画があがつた。現地踏査の結果、土器片が表採されたため試掘調査を実施する運びとなった。

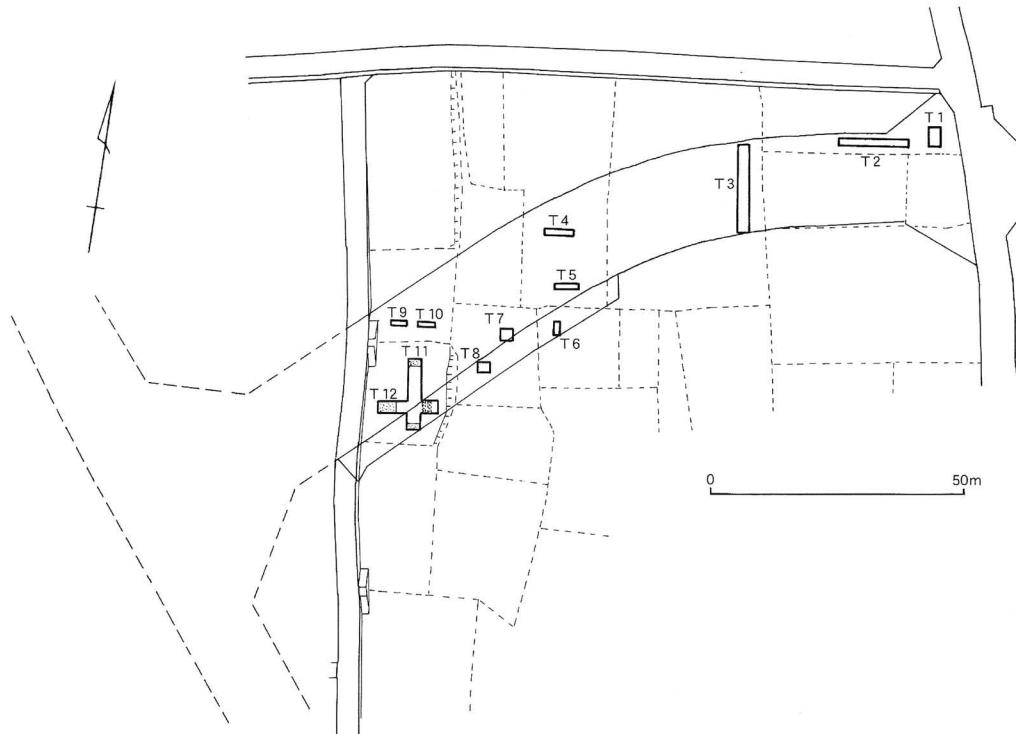
試掘調査は、試掘溝を耕作物に影響の無い様に11箇所設定し重機を用いて掘削した。東側ほど標高は低く、西へゆく程標高を増してゆく。表土は反対に東ほど厚く、西へゆく程薄くなる。最西の地点では地表面下約30cm程でローム層が検出された。東側ではロームの再堆積とみられる層が確認された。

検出された遺構と遺物

最も標高の高いトレンチ(T11, T12)で落ち込みとみられる暗褐色土の入り込んだ範囲がみとめられた。一部掘削したもののは人の為的な掘り込みであるかは不明である。また、遺物も出土しなかった。よって調査を完了としたが、表土から遺物が採集された(土師質土器片)ことから周辺に遺跡の存在を想定させることとなつた。



第23図 位置図[1/2,500]



第24図 曽根遺跡トレンチ配置図[1/1,500]

9. 伊奈ヶ湖遺跡

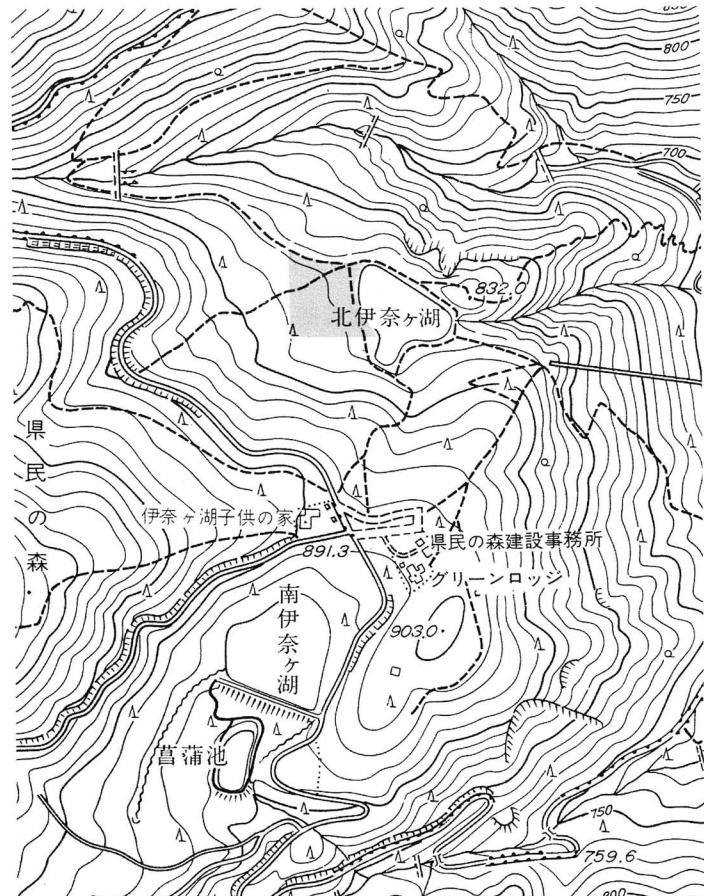
所在地	上市之瀬字高尾山1666番他
原因	公園造成による
調査期間	平成13年10月25日
対象面積	5420m ²
調査面積	164m ²

伊奈ヶ湖遺跡は、櫛形山中の断層窪地内の微高地状平坦部に立地し、標高は約900mを測る。

過去に調査に至った経緯はないが、炉址を発見したとの伝承がある。いわゆる「周知の埋蔵文化財包蔵地」である伊奈ヶ湖遺跡は湖の北東部を指す。

今回は北伊奈ヶ湖の西側、緩やかな傾斜地に公園の造成計画があがつた。厳密には埋蔵文化財包蔵地からは外れるものの、周囲から土師質土器片などの遺物が表採されたことなどから試掘調査を実施した。

試掘調査は、T字に試掘溝を設定し、重機を用いて掘削した。表土は薄く地表面下約40cm程



第25図 位置図[1/10,000]



第26図 伊奈ヶ湖遺跡トレンチ配置図[1/15,000]

で礫まじりのローム層が検出された。それより上層は黒色土が薄く乗っているのみでほとんどがローム層と礫の再堆積の様相を示していた。遺構・遺物とともに検出されなかつた。よって調査を完了した。

10. 豊小学校遺跡

所在地 吉田802—1他
 原因 保育園建設による
 調査期間 平成13年12月25日～28日
 対象面積 4050m² (既存の建物含む)
 調査面積 118m² (新規の敷地内のみ)

豊小学校遺跡は扇状地の扇端部にほど近い微高地に立地する。豊小学校建設時に弥生時代の土器が出土したとの伝承があり、また、十五所遺跡にもほど近い位置である。今回、豊小学校に隣接する豊保育園の改築工事の計画があがつた。敷地は現在既存の建物が存在するが、西側に新規用地が用意され、平成14年度に着工予定となった。当地は所謂「周知の埋蔵文化財包蔵地」である豊小学校遺跡として認識されているため、試掘調査を実施した。

試掘調査は、既存の埋設管の位置が不確定であったため、その周辺は手をつけずに合計7箇所の試掘溝を設定し、重機を用いて掘削した。

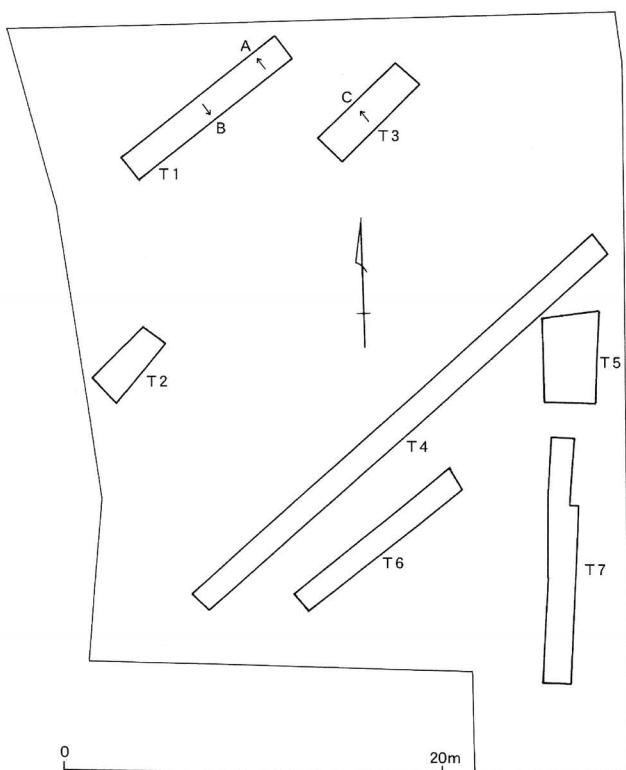
検出された遺構・遺物

埋設管をはさんで北側(T1～3)には砂礫層が厚く堆積し、河川の河床を示していた。礫層の下部にはラミナのみられるシルト層がみとめられた。地表面下約1.6mの深度である。埋設管より南側(T4～6)は礫層は無く、シルト層が厚く堆積しており地表面下約40cmで遺物包含層となつた。

包含層に含まれていた遺物は弥生時代末～古墳時代初頭のものとみられ、高壙、器台を中心としている。隣接する十五所遺跡は方形周溝墓群であり、そのエリアがこの地まで及んでいた可能性もあるが、地元住民からの聞き取りによると保育園が建設されるまで、この地に塚状の盛り上がりがあったなどの情報もあり、古墳の存在も念頭に置きたい。当計画地は平成14年3月より本調査に入ることで調整されている。

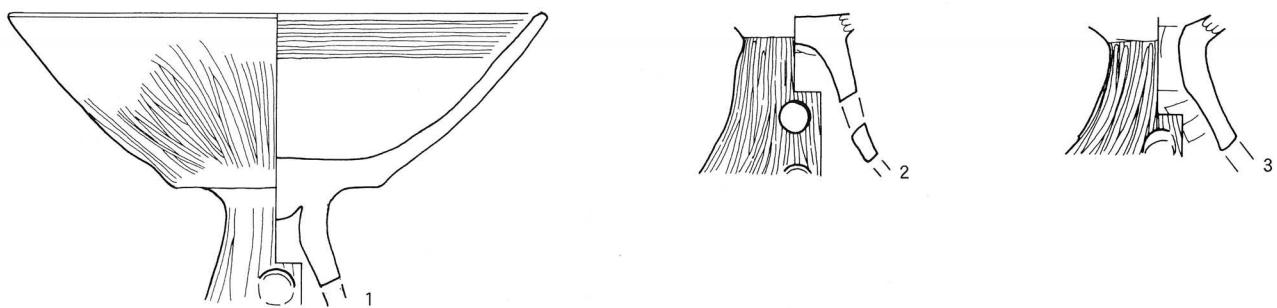


第27図 位置図 [1/2,500]



第28図 豊小学校遺跡トレンチ配置図 [1/400]

A	I 層：灰褐色砂質土
	II 層：砂礫層 (拳大の礫・米粒大の砂礫・黄灰色砂層が互層に入る)
B	I 層：A の I 層に同 II 層：砂礫層（拳大～5 cm 大） III 層：砂層（米粒大、拳大砂礫混入） IV 層：砂礫層（拳大～1 cm） V 層：黄灰色土層（しまり弱） VI 層：黄褐色土層（砂質微量含）
C	I 層：A の I 層に同 II 層：砂礫層（拳大～7 cm 大） III 層：砂層 IV 層：砂礫層（拳大～2 cm） V 層：砂層（しまり弱・ラミナ状）



第29図 豊小学校遺跡出土遺物[1/3]



T 1



T 4 作業風景



T 7



T 4



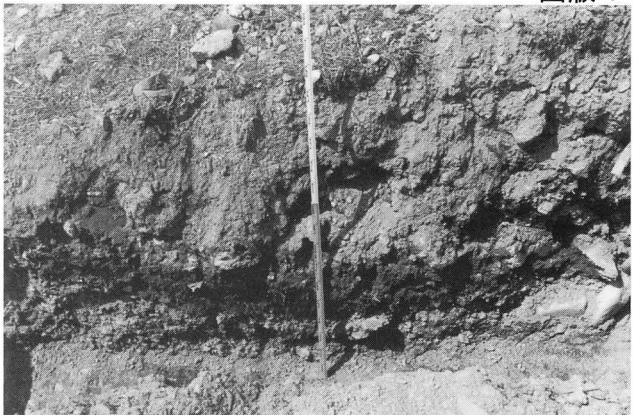
T 5 粘土採掘坑址

写真図版

図版 1



T4



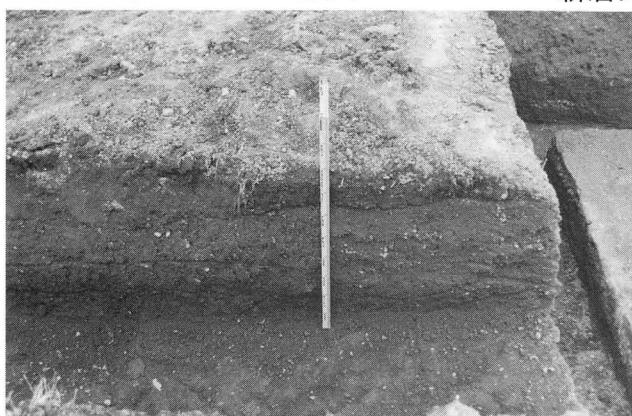
T6



北より



T23



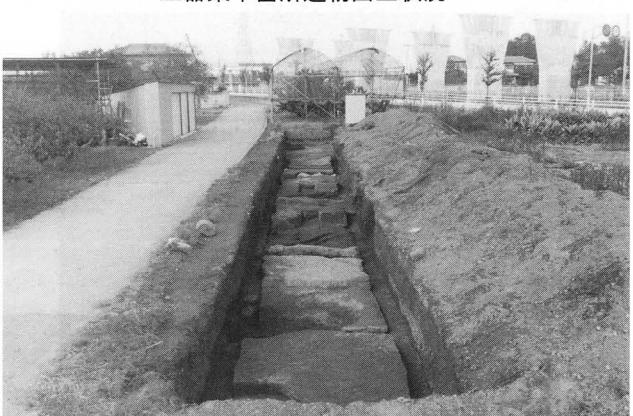
試掘溝断面北より



土器集中箇所遺物出土状況



1号方形周溝墓



十五所遺跡

南より

図版2



T9. T8



T6

新居田B遺跡



T9. T10

曾根遺跡



T11作業風景



T3

町内埋蔵文化財試掘調査報告抄録

フ	リ	ガ	ナ	チョウナイマイゾウブンカザイシクツチヨウサホウコク
書	名	町内埋蔵文化財試掘調査報告		
副	題	豊保育園改築に伴う豊小学校遺跡試掘調査他		
シリ	一	ズ	節形町埋蔵文化財報告 No.25	
編	著者名	阪保 太一		
発行者	節形町教育委員会			
編集機関	節形町教育委員会			
住所・電話番号	山梨県中巨摩郡節形町小笠原397-1	TEL	(055) 282-0180	
印 刷 所	野中印刷	南アルプス市小笠原1723		
発 勅 日	平成14年3月30日			
市町村コード	193909			
所 収 遺 跡 名	所 在 地	遺跡番号	北 緯 東 緯	調査期間
携帯電話鉄塔用地内	十五所895-3		138° 28' 26"	35° 37' 7"
横道	下市之瀬字横道69-1	184	138° 27' 29"	35° 35' 48"
滝沢川堤防右岸	小笠原字東村167-15他	257	138° 28' 22"	35° 36' 16"
狐塚	A 下市之瀬1429-8	189	138° 27' 45"	35° 35' 54"
新居田	A 平岡1149他	170	138° 26' 41"	35° 36' 21"
十五所	十五所177-1	21	138° 28' 50"	35° 37' 2"
新居田	B 平岡1163-2他	175	138° 26' 45"	35° 36' 15"
曾根	上宮地字久保976他	123	138° 27' 4"	35° 36' 40"
伊奈ヶ湖	上市之瀬字高尾山1666他	235	138° 24' 54"	35° 36' 3"
豊小学校	吉田802-1	20	138° 28' 54"	35° 37' 13"

本文 2 ページ第 1 表参照

